

2020年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証（DP）

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。
各学科・研究科専攻の学位授与の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記の URL）をご覧ください。

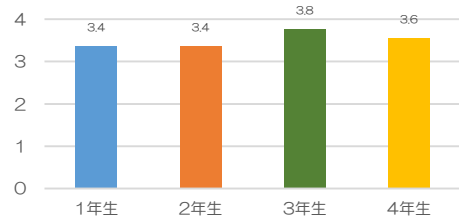
<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 社会福祉学科

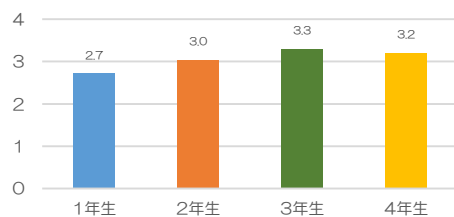
学位授与の方針に掲げている「学生が身に付けるべき資質・能力の目標」21項目中5段階ルーブリック評価検証可能な16項目について検証を行った。
回答者総数130、1年生25、2年生24、3年生27、4年生54。昨年度の回答者総数305から大幅に減少している。
以下に示す結果（図）は、各項目5段階（1～5点）の各学年の平均値を示している。

- ① 【知識理解】(1)さまざまな環境下にある人びとの生活や社会で起きている現象に関心を持つことができる
- ② 【知識理解】(2)さまざまな環境下にある人びとの生活状況、それらを取りまく社会構造、身体・心理的特徴、かれらへの関わり方等にどのようなものがあるかを理解している
- ③ 【知識理解】(3)さまざまな環境下にある人びとの福祉的課題について、アセスメントできる
- ④ 【知識理解】(4)自らの関心や適性をふまえて、(2)のなかでも特にどのようなアプローチで対象者の生活状況または社会をより良くすることができるかについて理解している
- ⑤ 【技能技術】(1)特定の課題について必要な情報を収集・整理・分析・考察し、文章化して、発表することができる
- ⑥ 【技能技術】(2)他者の発表や意見に関心をもって最後まで聞くことができる
- ⑦ 【技能技術】(3) 他者の発表などに対して質問や発言をすることができる
- ⑧ 【技能技術】(4) 他者の発言を促したり、自制を促すなどして全体の議論を調整することができる
- ⑨ 【態度・志向性】(1)ふだんの生活やさまざまな活動を通して抱いた疑問を大事にし、学びや行のやる気（モチベーション）を高めることができる
- ⑩ 【態度・志向性】(2)疑問に答えるための行動を起こし、自分なりの答えを見つけることができる
- ⑪ 【態度・志向性】(3)自分の意見を他者にわかるように伝える工夫をしており、適切に表現ができる
- ⑫ 【態度・志向性】(4)異なる立場にある人の意見や考え方を知り、対話の中で理解を深めることができる
- ⑬ 【行動】(1)態度志向性の(2)で見つけた現時点での自分なりの答えを実践すべく、目標を設定し、行動に移すことができる
- ⑭ 【行動】(2)目標に向かって他者と協力することができる
- ⑮ 【行動】(3)目標に向かう過程で困難に直面しても、成長する機会として前向きに捉え、乗り越えるための工夫ができる
- ⑯ 【行動】(4)身につけた知識・理解、技能・技術、態度・志向性をもって社会問題を解決する／社会に貢献することが楽しみとなっている

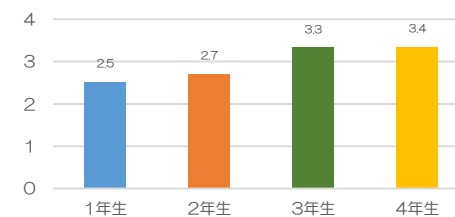
①【知識理解】(1)



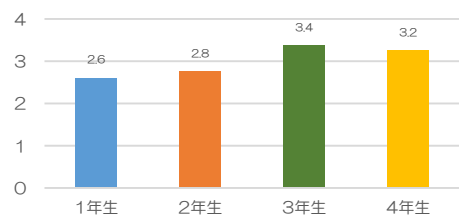
②【知識理解】(2)



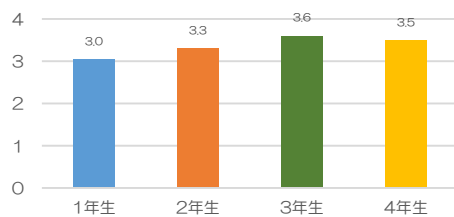
③【知識理解】(3)



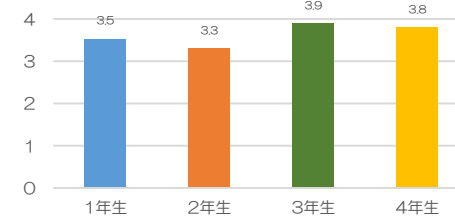
④【知識理解】(4)



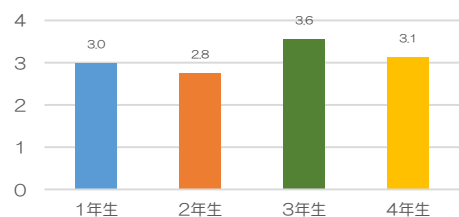
⑤【技能技術】(1)



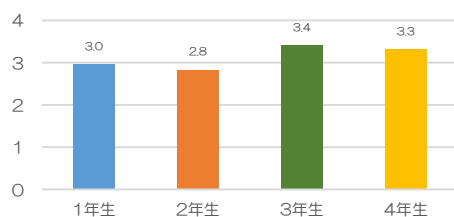
⑥【技能技術】(2)



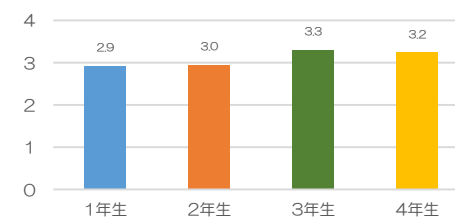
⑦【技能技術】(3)



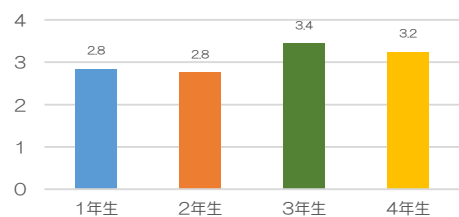
⑧【技能技術】(4)



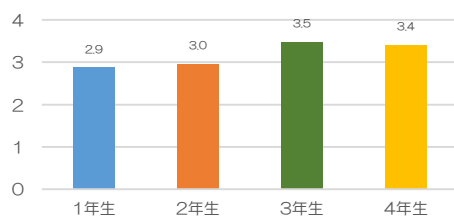
⑨【態度・志向性】(1)



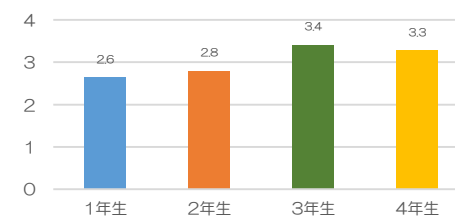
⑩【態度・志向性】(2)



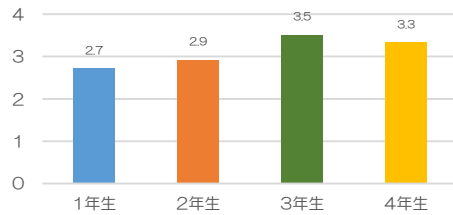
⑪【態度・志向性】(3)



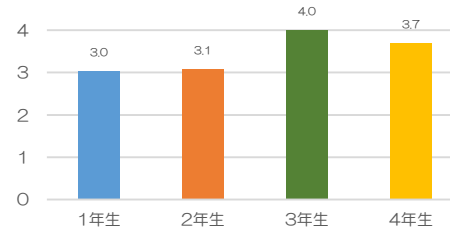
⑫【態度・志向性】(4)



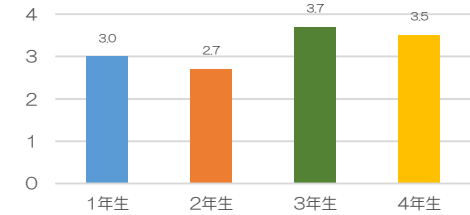
⑬【行動】(1)



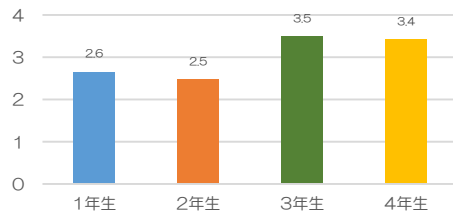
⑭【行動】(2)



⑮【行動】(3)



⑯【行動】(4)



1年生～4年生の平均値の比較（学年推移）では、各設問で上位学年程、点数が上がるのが望まれる。しかし、学年が上がるにつれて値が高くなっていない項目については課題と言える。

【考察】

2020年度は、コロナ禍においてオンラインを中心とした講義・演習となっていた。そのため、例年リエゾンゼミの時間内で自己評価の入力を行うことが多かったが、今回は学生への周知、理解が十分に図れなかったと思われる。そのため、回答者が例年よりも大きく減少している。このことが、結果に大きく影響を与えている可能性を考慮する必要がある。

「知識・理解」「技能・技術」「態度・志向性」「行動」という全ての資質・能力において、学年が上がる毎に概ね評価の平均点が上昇している。これは、本学科において1年時から履修できる専門教育科目や、全学的に推進しているキャリア教育、専門職養成における福祉現場における実習などから得られた学習成果が、学生自身の自己評価に反映されているものと思われる。